

委員長 五十嵐 雄祐  
副委員長 弘田 亨一  
副委員長 丸田 知明

## 1) 建築展・講演会・活動

・6/11 建築写真家 小川重雄氏「建築写真撮影セミナー」

会場：上遠野事務所

講師：小川重雄氏

・7/2 建築家 山梨知彦講演会「B I Mで仕事をとる」

会場：アスティ45の16階「ACU」1613研修室

講師：山梨知彦氏

・8/26 瀧上正幸 講演会「現代著名建築の機能と形態を分析する」

会場：内田洋行 ユビキタス協創広場 U-cala

講師：瀧上正幸氏

## 2016年度の活動報告

本年度は昨年度と同様に、広報担当、システム担当、出版担当に分かれての活動をしてきました。

出版担当はこれまで3年毎に出版してきました「建築家カタログ」を、来年度の建築展をはじめとする諸事業計画と連携をとりながら6月の出版を予定しており、その製作を進めています。

支部ホームページも引き続き、随時マイナーチェンジをしておりますので、皆様からお気づきの点、ご意見等も頂戴できれば幸いです。

- 委員長 : 石塚和彦
- 広報担当 : 岡田順博
- HP システム担当 : 大塚達也
- 出版担当 : 石塚和彦

カタログ出版委員：五十嵐雄祐、大杉崇、岡田順博、櫻井百子、弘田亨一、前川尚治

—— 総務委員会 ——

委員長	鷺見 健二
副委員長	石塚 和彦
副委員長	石田 純枝
入退会審査	平尾 稔幸
本部 FS 委員	平尾 稔幸

1) 2016年度通常総会

- 2016年5月12日(木) 東京ドームホテル札幌  
支部総会 : 議案につき可決承認された。  
総会員数162名 総会出席者 93名(内、書面表決12名、委任状33名)
- 表彰式 : 学生卒業設計コンクール
- 意見交換会 : 賛助会員及び来賓を交えて意見交換会を開催。

2) 支部総務委員会

- 各事業への協力。本年度は特に大きな事業が無かったが、来年度(2017年度)以降の事業企画重視の新体制の準備に向けて事業予算案策定等の活動を行った。
- 2017年度予算案策定。
- 入退会に関する事務手続き。
- 北海道事業: 高校生建築デザインコンクールへの実施運営委員会への参加。  
北海道・一社) 北海道建築士事務所協会・一社) 北海道建築士会 との共催。
- 事業委員会教育委員会主導のジュニアオープンデスクへの協力。

4) 本部総務委員 無し

本委員会では、

- ① 北海道建築設計会議
  - ② その他、発注団体、関係団体による会議
- についての活動を行った。

何れも業務環境の向上と他団体との情報共有を目的としている。

- ① 北海道建築設計会議（建築設計関連の 11 団体(10 団体+新聞社)で構成している北海道独自の会議)、に毎月の参加活動を実施している。昨年度は計 10 回開催された。2003 年に発足し、各団体の担当者による情報交換の場として定着しているが、それぞれの活動報告が中心となってしまっていることもあり、第 140 回幹事会では、道庁建築指導課より細谷主幹と佐々木主査を講師として招き、災害時における応急危険度判定士の活動についての勉強会を行った。その他にも、各団体共通の議題として、社会貢献、雇用問題、残業問題等についても議論した。
- ② その他関係団体による会議：北海道開発局、北海道、札幌市、建築士会、建築士事務所協会と JIA による公共建築設計懇談会幹事会に出席し、公共の取り組みや業務上の課題について確認・協議した。また、全道確認円滑化対策連絡協議会及び全道建築行政連絡会議への対応も行い、手続き関係における最新情報を確認した。

委員会としては、今後も建築家の職能の確立と業務品質の向上を目指し活動していく。

—— 苦情対応委員会 ——

委員長 中原 隆一

会員に対する苦情相談が電話で1件ありました。引き渡しが終わりに居住しているが、設計と違う個所が幾つかあり設計者の責任で直してほしいが誠意のない態度に不満との事。一度図面と契約書を見せて下さいと話したが、その後特に連絡が無いままとなっています。  
(図面は持ってきていない)

—— 支部規約委員会 ——

委員長 中原 隆一

支部規約は、現在、全面見直し作業が終了し運用段階に入っております。現在までのところ、特別な運用上の不都合は発生しておらず、したがって、16年度には、具体的な対応作業はありませんでしたので、その旨報告致します。

## ——支部建築家資格制度実務委員会——

委員長：山之内 裕一 副委員長（本部委員）：大田 司  
委員：中藪 則喜、羽柴 功一、澤 康昌、岡田順博

### ■ 本部・資格制度実務委員会（WEB会議・本部委員会）

「正会員は全員登録建築家に」というスローガンのもと、キャンペーン最後の1年となり、JIA マガジンやメール配信等でキャンペーンの告知を行いました。その結果、北海道のJIA会員に占める登録建築家数の割合は63.0%となりました。全国では51.9%と半数を超える数字です。昨年に引き続き、今後の検討事項として、下記を予定しています。

- ・キャンペーン後の正会員の登録建築家への方向付け
- ・一般の人々への『登録建築家』浸透方法の検討
- ・建築基本法の議論
- ・登録建築家申請のガイダンスを今年度のものに修正
- ・資格制度HPのアップデート

支部の登録建築家への新規の登録数は、キャンペーンやその告知を数度に渡って行ったもののまだ満足できる数字にはなっていません。キャンペーンも終了し、今後正会員を登録建築家へと誘導していく方策を考えていくこととなります。

### ■ 実務訓練部会

前年度同様、実質的な活動は行われておりませんが、この資格制度の根幹となる部分です。今後の対応は本部の委員会を通して、制度の簡略化等継続検討していくこととなります。

### ■ 登録建築家更新・再登録審査

2017年3月に、登録建築家の更新・再登録の審査を行いました。

今回の更新者は北海道支部全体で25名です。内訳は、細則9条1による更新者16名、同9条3による更新者6名、同10条1（再登録者）による更新者3名。

2月17日、申請内容の調査を支部資格制度委員会で行い、支部認定評議会による審査を3月7日に行いました。評議会では、25名全員の更新要件審査を行い、規定の更新要件を満たしていると判断し、本部認定評議会へ審査結果を送付しました。

その結果3月31日の本部認定評議会で25名全員の更新と再登録が認定されました。

### ■ 登録建築家の新規認定審査

今回は、新規申請が4件ありました。支部資格委員会および支部認定評議会にて提出された資料および細則8条1に基づき、新規認定相当と認め本部認定評議会へ審査結果を送付しました。その結果3月31日の本部認定評議会で4名の新規登録が認定されました。

### ■ 評議員からの意見

支部認定評議会では評議員の方からの下記のような主要な意見をいただきました。

- ・ポートフォリオの更新性を改善（追加の時期をある程度自由に）してはどうか？また販促ツールとして利用できるようにすれば登録建築家の申請につながるのではないかと？
- ・設計だけではなく監理にも視点を置いたアピール方法もあるのではないかと？

以上、2016年度、支部建築家資格制度実務委員会の活動報告です。

## 第6回「JIA.テスクチャレンジ設計コンペ」の挑戦

私たち北海道支部と全国に独創的な外断熱工法を提案する(株)テスクが毎年共同で主催している環境型設計競技（コンペ）を紹介したい。JIA北海道支部の主催するコンペの中でも、毎年時流の風を捉えた社会性の高いテーマ設定が特色であり、「設計者の環境的感性を育てると共に、その豊かな創造力で次世代における建築の価値を広く問う」ことを目的として始まり2015年は第6回目の開催となった。21世紀が環境の世紀と呼ばれて久しいが、それは同時に20世紀型の「発展」や「成長」のあり様を問い直す時代とも言えるだろう。既に豊かさを達成した先進国にとって今までの成長を維持することがどんどん難しくなるのと同様に、今後は発展途上国といえども、かつての先進国が行ったような、環境消費型の成長は難しい。そんな時代に生まれたこのコンペは、長らく分離して教えられ位置づけられてきた「意匠」と「環境」を融合した視点で建築を捉え直し、問題の解決を図ることを基本としている。最近の参加者の傾向として意匠と環境を選考する学生同士の混成チームや緻密なフィールドワークを元に提案のリアリティーを高めるスタイル、はたまた意匠系の頭だけでは足りない困難さにあえて挑戦するチャレンジャー等々、北海道のみならず首都圏や遠く関西からもエントリーをいただくようになった。

### 1.特色ある課題設定

特に課題設定は当コンペのもっとも特徴的で苦勞する作業といえる。時流の風を睨んだ社会性の高いテーマを中心に実行委員が街のあちこちを移動しながら会議を進める。度重なる会議を同じ会議室でしかめ面で続けるのではなく意図的に思考の場を変える事でまさに潜むさまざまな課題を出題者自ら発見すること、そうした新鮮な気付きや閃きが毎年のコンペのテーマの源泉となっている。

### 2.特色ある審査委員長と後任継承のシステム

意匠設計者の団体で催す設計競技でありながら、審査委員長は道内の環境系研究者にお願いするのも当コンペの特色といえる。また審査委員長は後任を指名し原則任期が2年の間、活動を共にすることで引継ぎも完了するというシステムを導入し、二年間先輩の背中を見ながら次の審査委員長を育てるというシステムを採用している。

### 3.特色ある審査

ここ数年、コンペの審査は札幌中心部の地下街で行き交う一般市民も交え公開イベントとして行っている。特に最終選考に残った7～10作品の設計者によるプレゼン合戦と審査委員とのやり取りは時に白熱し、笑いも誘う。建築設計というものづくりはある側面で見れば膨大な合意形成の連続ともいえる。普段慣れた意匠系教官からの想定内の質問とはまったく性質の異なる環境系の識者からの突っ込みはかなり刺激的なようでここ数年は意匠系と環境系の学生による合同チーム増加の要因ともなっている。

第6回 J I A.テスクチャレンジ設計コンペ2015より

テーマ：『不便が気持ちのよい住まい』

私たちの身の回りに溢れかえる便利さを疑うことを求めた課題。

詳しくはコンペ専用F Bで <https://www.facebook.com/Jiatesukucompe>



緻密なフィールドワークと巨大な模型を前に雪や寒さに対する工夫のみならず、農業生産から販売までを総合的に提案した北海道科学大学チームは最優秀賞に輝いた。

作品名：「六花の農」



空間を決定付ける環境要素を追求したプレゼンで優秀賞を獲得した北海道大学工学院チームの作品。

日頃のサーベイや非常にロジカルに雪や寒さ、日射利用に取り組んだ点が評価された。作品名：「壁の帆船」



審査員と観客に囲まれて最終審査に臨んだ北海学園の山崎さんのプレゼン。環境技術の発達した北海道だからこそそれを用いてより高い快適性と空間性にフォーカス可能なのでは、という主張が優秀賞につながった。

作品名:「ドアのアト」

#### 4. 今後の展開

当初は地域色に注目し、ある種ローカルな試みとして始まった当コンペでだったが嬉しいことに近年急に多くの参加をいただくようになった。その背景には冒頭にも記した世紀をまたぐ成長に対するパラダイムシフトがあるのかもしれない。今や建築というものづくりはさまざまな環境的配慮と建設後に連なる、複雑なステークホルダーに対する合意形成や説得なしには成立し得ない。そんな時代に生きる設計者を養成する一助として今後とも積極的に取り組んで行きたいと思う。

2016年3月22日 JIA. テスクチャレンジ設計コンペ実行委員 山本亜耕

### **JIA大阪大会への参加**

環境会議では、全国支部代表が1年間の活動報告を行うとともに、環境データ評価、伝統的工法の住まい、環境建築ガイドブックの進捗状況など、各部会での活動について報告、意見交換を行う。

北海道支部での報告は、前任者の小室氏からの引継ぎとして、1名体制から複数のメンバーを募り活動のベースを整えつつあることを報告する。2016年はそうした準備期間として、環境会議から送られてくるメール情報等の共有化を試みた。

2017年以降は受領する情報のほかに、北海道メンバー間での情報交換やオープンハウスなどの見学会を行っていきたいと考えている。

全国会議委員 山内 一男  
委員長 山内 一男  
副委員長 西澤 邦夫

全国保存再生会議は、J I Aの保存再生の取組み活動の連絡と集約することを目的に、2015年5月から毎月1回、WEB会議で保存再生活動情報の集約から始まりました。J I A修復塾の立上げの協力と参加、J I A全国大会での全国保存再生会議開催などを決めていきました。

## 2016年度活動報告

□15年度の7回のWEB会議と金沢での全国大会を受けて、2016年度の会議が行われました

### ■16年度活動報告

4月18日(第8回)、5月20日(第9回 欠席)、6月20日(第10回)、8月1日(第11回 欠席)、9月5日(第12回)、10月3日(第13回)、12月6日(第14回 欠席)、1月25日(第15回)、3月8日(第16回)の計9回の全国保存再生会議WEB会議が開催されました。

○来年度からは2ヶ月に1度の会議開催に決定した。

○歴史的建築物の活用促進に向けた建築基準に関する連絡会議に参加を決定した。

○近現代建物調査に協力した。次年度、神奈川と奈良の調査協力に参加する。

○修復塾修了者のネーミングの検討と組織化、修復塾のJ I Aでの位置付けが検討された。J I A保存再生会議のWGという確認があった。

○J I A修復塾とヘリテージマネージャーとの「連携」の道を探ることとした。

○熊本地震の文化財ドクターの派遣と2次調査に参加。

10月28日J I A大阪大会・綿業会館にて全国保存再生会議が開催され、山内と旭川から軽部氏が参加し、北海道支部の活動近況と課題の報告を発表しました。

○発表内容は別紙参照

全国会議委員 鈴木 敏司  
委員長 菅沼 秀樹  
副委員長 小澤 丈夫

## 2016年度 活動報告

### ■札幌創世1.1.1区（さんく）現場見学会

2017年2月9日14:00から、札幌創世1.1.1区北1西1地区再開発事業の現場見学会を実施した。この事業は、ホールや図書館、アートセンターといった公共施設と、オフィスや放送局などの民間施設を複合的に整備する大規模な再開発事業である。正会員13名、スタッフ等11名、計24名の参加があった。最初に、大成・岩田地崎・伊藤・岩倉・丸彦渡辺JVの千葉副所長から計画概要や進捗状況について説明を頂いた。特に、現在は低層棟ホール屋根のリフトアップ直前のタイミングということで、計200tにもなる4本組の屋根トラスを、30m以上リフトアップする技術について、詳細に解説頂いた。現場では、地組みされた屋根トラスを始め、ダイナミックな構造躯体を間近に見ることができ、敷地いっぱい建つ都心の大規模再開発における、仮設や建方の難しさを感じることができた。

### □委員会打合せ

2017年3月9日、まちづくり委員会の3名での委員会打合せを実施した。鈴木全国会議委員から、JIAまちづくり全国会議について、これまでの経緯やテーマ等をレクチャー頂いた。全国会議では、日本版CABE、プロポーザルのあり方、保存再生まで、幅広い議論がされている中で、北海道支部におけるまちづくり委員会の意義などについて議論を行った。

—— 建築相談委員会 ——

委員長 奈良 顕子  
副委員長 國澤 全克

2016年度内に、建築相談はありませんでした。

— アーカイブス委員会 —

委員長 宮崎 正之

2016年度 活動報告

北海道の建築家のアーカイブスを JIA の活動委員会としてスタートしました。  
支部長経験者 5 人などで方向性を出しました。

2016 年 11 月 18 日

①60 年くらい遡ってからのアーカイブスとする

②原図保存方式ではなくデータベースで建築家の作品以外にもリンク出来るよ  
う  
にする。

③外部有識者（建築系）にも参加して委員会を構成する。

以上骨子を JIA 幹事会で承認されました。

——2016 年度旭川地区会活動報告——

委員長 軽部 望  
副委員長 柳 雅人

- 2016/4/05 【2016 年度第 1 回旭川会会議】 運営会議他  
2016/4/13 【2016 年度第 2 回旭川会会議】 運営会議他  
2016/4/20 【2016 年度第 3 回旭川会会議】 赤レンガ市庁舎の会 1st Period 運営準備会議  
2016/4/23 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 1st Period 開催  
2016/4/26 【第 8 回幹事会】 軽部、石田出席  
2016/4/27 【2016 年度旭川会総会】 2016 年度活動報告、2016 年度活動計画、運営体制について他  
2016/5/02 【市庁舎図録編集会議】  
2016/5/10 【Asahikawa School 24 「JIA リフレッシュセミナー報告～なぜ今コレビュージェカ？」に参加して】 開催  
2016/5/12 【2016 年度北海道支部通常総会】 軽部、大矢、石田 出席  
2016/5/24 【赤レンガ市庁舎模型制作・計画打ち合わせ】  
2016/5/25 【2016 年度第 4 回旭川会会議】 赤レンガ市庁舎の会 2nd Period 運営準備会議  
2016/5/26 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 市の担当部局と面談  
2016/5/28 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 2nd Period 開催  
2016/6/07 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 運営準備・打ち合わせ  
2016/6/08 【2016 年度第 5 回旭川会会議】 赤レンガ市庁舎の会 3rd Period 運営準備会議  
2016/6/11 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 3rd Period 開催  
2016/6/13 【藤本壮介展会場設営】 6/14 迄の 2 日間実施  
2016/6/17 【市庁舎図録編集会議】  
2016/6/22 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 白鳥市議と面談  
2016/6/27 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 西川市長に提言書の提出・内容説明  
2016/6/28 【2016 年度第 6 回旭川会会議】 運営会議他  
2016/6/28 【Asahikawa School 25 「時間を超えて共生する価値を見つめて～スペイン・イタリヤ紀行より】 開催  
2016/7/02 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 4th Period 開催  
2016/7/07 【2016 年度第 7 回旭川会会議】 運営会議他  
2016/7/12 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 安田市議と面談  
2016/7/14 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 AM 共産党会派 PM 公明党会派と面談  
2016/7/14 【2016 年度第 8 回旭川会会議】  
2016/7/19 【藤本壮介展会場撤収】  
2016/7/29 【2016 年度第 9 回旭川会会議】 赤レンガ市庁舎の会 5th Period 運営準備会議  
2016/7/29 【Asahikawa School 26 「シークレット・ナレッジ ザハ・ハディド建築デザインのルーツ」 開催  
2016/7/30 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 5th Period 開催  
2016/8/02 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 民主党会派と面談  
2016/8/03 【2016 年度第 10 回旭川会会議】 親睦ビール会開催  
2016/8/05 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 虻名市議と面談  
2016/8/10 【2016 年度第 11 回旭川会会議】 運営会議  
2016/8/17 【2016 年度第 12 回旭川会会議】 赤レンガ市庁舎の会 6th Period 運営準備会議  
2016/8/19 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 6th Period 総合庁舎見学会開催  
2016/8/25 【2016 年度旭川会臨時会議】 遠藤支部長来旭  
2016/8/29 【Asahikawa School 27 「市民活動の基礎知識～NPO の可能性】 開催  
2016/8/30 【第 3 回正副委員長会議】 軽部、石田 出席  
2016/9/02 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 事務局会議・署名活動説明会  
2016/9/05 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 自民党会派と面談  
2016/9/12 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 能登谷市議と面談

- 2016/9/12 【2016年度第13回旭川会会議】赤レンガ市庁舎の会 7th Period 運営準備会議
- 2016/9/16 【2016年度第14回旭川会会議】運営会議
- 2016/9/17 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】7thPeriod 開催
- 2016/9/21 【2016年度第15回旭川会会議】運営会議
- 2016/10/11 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】運営準備・打ち合わせ
- 2016/10/14 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】運営準備・打ち合わせ
- 2016/10/15 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】8thPeriod 開催
- 2016/10/20 【常磐ラボで中・高校生に対する市庁舎レクチャー】
- 2016/10/22 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】文化会館ロビーで署名活動
- 2017/10/24 【第3回幹事会】石田出席
- 2016/11/01 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】運営準備・打ち合わせ
- 2016/11/06 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】街頭署名活動
- 2016/11/05 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】9thPeriod 開催
- 2016/11/12 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】署名活動打ち合わせ
- 2016/11/13 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】街頭署名活動
- 2016/11/14 【市庁舎図録編集会議】
- 2016/11/16 【保存要望書提出】旭川市へ遠藤支部長より保存要望書提出・立会
- 2016/11/16 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】署名活動打ち合わせ
- 2016/11/20 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】街頭署名活動
- 2016/11/21 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】10thPeriod 開催
- 2016/11/25 【市庁舎図録編集会議】
- 2016/11/26 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】署名活動打ち合わせ
- 2016/11/27 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】街頭署名活動
- 2016/11/30 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】署名活動打ち合わせ
- 2016/11/29 【第5回正副委員長会議】軽部 出席
- 2016/12/01 【市庁舎図録編集会議】
- 2016/12/04 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】街頭署名活動
- 2016/12/09 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】11thPeriod 開催
- 2016/12/21 【Asahikawa School 28 「フィンランド・エストニア・デンマークの旅」】開催
- 2016/12/28 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】保存・活用を求める24,575筆の署名簿を旭川市長に提出
- 2016/12/28 【2016年度旭川会忘年会】実施
- 2016/1/10 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】市庁舎利活用 W.G. 打ち合わせ
- 2016/1/13 【2016年度第16回旭川会会議】運営会議
- 2016/1/16 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】市庁舎利活用 W.G. 打ち合わせ
- 2017/1/19 【新年交例会】大矢出席
- 2017/1/24 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】公明党会派と面談、表副市長・岡田副市長との面談
- 2017/1/26 【市庁舎図録編集会議】
- 2016/1/27 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】市庁舎利活用 W.G. 打ち合わせ
- 2017/1/28 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】12thPeriod 開催
- 2017/2/02 【市庁舎図録編集会議】
- 2017/2/04 【第1回協力会連携企画】親睦会実施
- 2017/2/18 【Asahikawa School 29 公共施設の再生—東川町での取り組み】開催
- 2017/2/18 【旭川建築作品発表会（主催：旭川まちなみデザイン推進委員会）】後援
- 2017/2/28 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】林市議と面談
- 2017/3/22 【Asahikawa School 30 縦に延びるニューヨーク】開催
- 2017/3/28 【旭川市庁舎図録】発行
- 2017/3/28 【第7回正副委員長会議】石田出席

委員長 小野寺 一彦  
副委員長 眞壁 喜男

■ 2018年10月15日～10月16日

事業名 法人協力会と共同による道東地区建築セミナー  
会場 網走市

■ 事業内容

10月15日（土）・16（日）の両日網走市において、協力会による建築セミナー他、昭和11年田上義也氏設計による網走市立郷土博物館をはじめ、道内他の地域には見られない独特のオホーツク文化を担ったモヨロ人の生活を伝えるモヨロ貝塚館の見学。同地域の施設・歴史的建造物等から地方の建築と文化ほか、網走監獄博物館にて保存再生事例や、開拓当時の囚人達の労力によるオホーツク圏の開拓を学ぶ。



■ 統括

JIA北海道支部の道東地区事業として、協力会との共同事業で行ないましたが、道東地区会員及びオープンセミナーとしての建築セミナーとしたが、地域会員や一般の人たちの参加がなく、周知に問題がある事を感じた。

参加いただいた会員及び協力会の皆さんとの懇親の場では、セミナー内容・市内建築物等の見学等の話が夜がふけるまで続き、本事業・開催場所などにも満足していただけた内容の言葉も有り、概ね一応の目的は達成出来たと考える。

----函館地区----

委員長 川嶋紀夫  
副委員長 小澤 武

- 2015年7月21日 JIA 北海道支部会議 幹事会 川嶋出席  
2015年9月17日 JIA 金沢全国大会 山内氏出席  
2015年9月28日 JIA 北海道支部会議 正副会議 小澤出席  
2015年9月30日 第1回函館地区会議 今後の活動方針  
2016年にポケット展の開催の検討  
2015年10月27日 JIA 北海道支部会議 幹事会 川嶋出席  
2015年11月13日 ポケットの開催場所の調査  
函館蔦屋書店の貸しホールの見学・店長と打ち合わせ  
2016年1月20日 第2回函館地区会議  
建築展会場の検討 開催日を6月-8月予定  
2016年1月21日 JIA 北海道支部会議 幹事会 川嶋・小澤出席  
2016年4月26日 JIA 北海道支部会議 幹事会 川嶋  
2016年7月7日 青函交流の件で青森地域会進藤氏・福士氏来函  
2016年7月27日 第3回函館地区会議 青函交流・建築展の件  
2016年7月28日 JIA 北海道支部会議 幹事会 川嶋出席  
2016年8月26日 第4回函館地区会議 青函交流の日程の件  
2016年8月30日 JIA 北海道支部会議 正副会議 小澤出席  
2016年9月26日 第5回函館地区会議  
函館蔦屋書店の店長より1階マルシェで建築展を開催しないかの件  
2016年9月27日 JIA 北海道支部会議 幹事会 川嶋出席  
2019年10月5日 第6回函館地区会議 蔦屋書店での開催決定  
2016年10月24日 函館蔦屋建築展開催 (間19日間)  
2016年10月27日 JIA 大阪全国大会 山内氏出席  
2016年10月27日 第7回函館地区会議 青函フォーラムの最終打合せ  
2016年11月11日 青函フォーラム+北三県例会 in 函館開催  
2017年1月19日 JIA 北海道支部新年会 川嶋・二本柳出席  
2017年1月31日 JIA 北海道支部会議 幹事会 小澤出席

委員長 赤坂真一郎  
副委員長 保科文紀  
副委員長 前川尚治

## 1) 建築展 2017 にむけての準備

・支部幹事会、正副委員長会議、建築展関係委員会による合同会議などにおいて建築展 2017 に向けて展覧会のイメージを膨らませたほか、具体的なイベント内容や予算組などについては、建築展委員会単独で会議を重ねた。2016年11月末の支部正副委員長会議においては下記の基本概要を示し承認された。

### ● 開催日程

- ・ 2017年7月21日(日)～7月23日(日)の3日間  
(搬入20日(木)／搬出23日(最終日終了後))

### ● 会場

- ・ 札幌駅前地下歩行空間「チ・カ・ホ」 北3条(キタサン)広場および隣接するエリア(キタサンの斜め向かい(東側)を希望)の2会場を予定。会員企画はキタサン広場(メイン会場)、協力会企画などを隣接する会場にて。

### ● テーマ・目的

- ・ 建築家の職能、社会への貢献を多くの市民に認知してもらう
- ・ 公益性を持ったJIAの活動紹介
- ・ 住宅だけではない建築家の幅広い設計活動をアピール
- ・ 建築家に依頼する意味、メリットを多くの人に理解してもらう

### ● コンテンツ

#### ① 市民加型の模型展 7月21日(金)～23日(日)の開催を予定

会員の作品模型展示の他、チカホを利用する市民が参加できる、いくつかの建築的ボリューム(参加型アドリブ模型)を創る。また、それらができてゆく過程や完成形をSNSなどでライブ感を持って発信する。

#### ② ワークショップ 22日(土)・23日(日)の開催を予定

市民に人気がある模型展と絡めた形で行う。例えば、子供たちに段ボールでヘルメットを作ってもらい、それをかぶって模型作り(キューブを積み上げたり)に参加してもらうなどの案。その他、協力会を中心としたWSの企画も用意。

#### ③ セミナー&トークイベント 22日(土)・23日(日)の開催を予定

飯田善彦氏のセミナーをはじめ、歴史、街づくり、旅などをテーマに、外部からのゲストと会員を絡めたかたちでのセミナーを複数開催予定。作り手(メーカーや工務店)側からみた建築家像など、内輪だけでなく、外からの意見も聞けるような開かれた公益性の高い企画としたい。「キタサン」会場のモニター(1面のみ)を利用し、座席の密度感を高める。

#### ④ パネル展示 21日(金)～23日(日)の開催を予定

過去の展示における、市民からのパネル展示への反応を見ると、費用対効果が低い印象がある。そのため、今回のパネル展示は各会員の紹介などではなく、過去の住宅賞やJIAの活動、地域会の紹介などに絞って制作したいと考えている。

→各会員の紹介は「模型」を中心に行う。つまり建築展参加者は模型の出展は必須。各模型前にはポケットを用意し、それぞれの事務所のポストカードやパンフなどを備え付ける。顔写真なども模型前に設置が効果的か。

#### ⑤ JIA北海道建築大賞表彰式 22日(土)または23日(日)の開催を予定

現地審査の対象となった10作品?を紹介するパネル&模型の展示。表彰式に絡め、入賞者によるトークセッションも企画する。

⑥ 展参加建築家紹介手帖の制作 会期中、会場にて無料配布を予定

単に参加会員の紹介に終わらぬよう、会場、イベントチェックリストや、建築家選びフローチャート、建築家おすすめ札幌建物マップ、建築メンテ心得など、市民が楽しめる工夫を盛り込んだ「手帳」をつくり、無料で配布する。

2) 建築展 2017 の広報

・10月にチカホで行われた「札幌デザインウィーク 2016」の会期中に、JIA 北海道支部として会場の一部を借り、下記のような建築展 2017 アピールイベントを開催した。

・アピールイベント「建築家うごく！」

日時 : 2016年10月22日

会場 : キタサン広場 (チカホ 北3条)

イベント内容 : ①スライド写真による建築家の「旅のはなし」1.5h×3回  
～各階30～80人程度の参加者があった。

: ②建築展の情報と呼びかけ (建築大賞、建築家カタログのアピールも同時に)  
10min×3回

## 1：「現代板金建築」の発行

過去3回開催された北海鋼機デザインアワードの一区切りとして、2016年春より出版準備を初めた記念誌「現代板金建築～THE BANKIN」を、2017年2月に鹿島出版会より発行した。

過去の受賞者による座談会や三宅理一氏、塚本由晴東京工業大学大学院教授をゲストに迎えた対談を行うなど、多くの方々にご協力いただいた。

編集にあたっては小澤北海道大学大学院教授および研究室の皆様にご尽力いただき、本事業の総括と今後への知見が詰まった一冊となった。また、出版には北海鋼機からの多大の支援があったことを報告いたします。

### 書籍紹介



現代板金建築 北海鋼機デザインアワード記念誌編集委員会／編著

価格：本体 2000円＋税

「文化性を伴いながら独自の発展を遂げてきた現代の板金建築の魅力を、広く一般に向けて紹介し、これからの可能性を探るもの。板金を使用した建築を中心に、ユニークな鉄の使い方を見せる作品を公募し、レビューする。実現受賞作を通して、独創的に素材を使用した作品の魅力、その背景にあるもの、将来の可能性を浮き彫りにし世に提起する。」

## 2：第4回北海鋼機デザインアワードにむけて

2018年に開催予定の第4回北海鋼機デザインアワードにむけて準備を開始した。

過去3回、審査委員長を務めたいいただいた小澤教授から引き継ぐ、新しい審査体制の検討や要項の見直し作業をおこない、2017年夏から応募開始、2018年春審査予定となっている。

1) JIA 全国学生卒業設計コンクール 2016

毎月のWEB会議を行ない、全国 JIA の担当者の協力のもと自主費用により、新宿アイランドタワーBF1F・アクアプラザにおいて JIA 全国学生卒業設計コンクール 2016 開催致しました。

北海道支部から選出された3名、青葉 桜君(北海道大学)、河中 宗一朗君(北海学園大学)、檜村圭亮君(北海道大学)が参加、青葉君がファイナリストに残り、見事に審査員特別賞をいただきました。北海道支部においても良い結果でした。各支部、地域会から選出された全国の作品を前に審査員、各支部地域会担当者、学生達が真剣な議論と評価を繰り返す、建築家が選ぶコンクールは、学生達の心に残る、全国で試される良いコンクールでした。

2016年6月24日(金)作品搬入

6月25日(土)公開審査、講評、表彰、懇親会

6月26日(日)展示会、作品搬出

審査委員 青木淳(審査委員長)、高橋晶子、竹内昌義、名和研二、原田真宏(敬称略)

2) JIA 北海道支部学生卒業設計コンクール 2017 審査経過

2016年12月11日 ワーキンググループにて日程、各大学、高専、短大、専門学校に案内を発送

2017年2月15日 ワーキンググループにて審査員を確定

審査員長 宮下 勇 JIA 会員

審査員 小倉寛征 JIA 会員

五十嵐雄祐 JIA 会員

以上の三氏による審査を決定

3月14日(火) 内田洋行ユビキタス協創広場 U-cala にて公開審査にて厳正な審査の基、審査員の投票結果をもとに協議し、金賞1点、銀賞1点、銅賞1点、実行委員特別賞1点、審査員特別賞3点選出。

5月12日(金) JIA 北海道支部総会において各賞の表彰状を授与予定。

受賞者	賞名	作品タイトル(サブタイトルまで)	大学(学部不要)
八木 悠	金賞	-そして「 」は彼らを想う-	北海学園大学
伊藤 拓海	銀賞	街を縫い合わせて、、、	北海道大学
羽田 宗人	銅賞	振りさけ見れば…出でし月かも	北海道大学
林 泰祐	実行委員特別賞	フジョウノバ	北海道大学
炭田 あすみ	審査員特別賞	纏う	北海道芸術デザイン専門学校
中山 ゆかり	審査員特別賞	湧水交差点	北海道芸術デザイン専門学校
渡邊 萌木	審査員特別賞	結の歩廊	北海道大学

## 教育委員会活動報告

### ・北のジュニア・オープンデスク（教育委員会）

8月1日～8月8日：オープンデスク開催

参加者：北海道釧路工業高等学校 阿部 裕希さん（2年）→ くりえいと創

参加者：北海道釧路工業高等学校 若山 弥央さん（2年）→ くりえいと創

8月9日 見学会・交歓会

見学場所：創世 1.1.1 区北1西1地区新築工事

交歓会：共同企業体現場事務所の会議室

参加者：阿部さん、若山さん、宮越 築先生、北海道教育庁 藤井 一志主幹、

JV所長 金田 亮太郎氏、JV主任 谷口 悠美子氏、

札工振興会事務局長 豊山 孝雄氏、北海道建設新聞社 柿元 瞬氏、

JIA 遠藤 謙一良支部長、小杉 朋希副支部長、十河 昌司

### ・平成28年度高校生建築デザインコンクール（事務局 北海道建設部建築局計画管理課）

・設計課題 高等学校の農業実習管理棟

・建設地 北海道美幌高等学校敷地内

・敷地面積 1,000m<sup>2</sup>程度

・構造・規模 鉄骨造 平屋建て

・延床面積 300m<sup>2</sup>程度

・提出様式 JIS規格A-2版横置き一枚片面、縮尺1/50～1/100

作品タイトル、設計主旨、配置図兼平面図、立面図・断面図、スケッチ、面積表を明示

運営スケジュールは以下のとおり

平成28年6月14日	実施運営委員会（小杉氏参加） 実施要領・募集要項・事業費の検討承認
平成28年6月17日	工業高等学校へ募集要項送付
平成28年6月20日～7月1日	募集要項に対する質疑受付
平成28年7月6日	募集要項に対する質疑回答
平成28年8月22日～9月2日	作品受付
平成28年9月9日	選定委員会 入選作品の審査、選定
平成28年9月下旬	関係機関への選定結果通知
平成28年11月中旬	表彰式
平成28年11月下旬	作品集印刷製本
平成28年12月上旬	入賞者へ症状及び受賞記念品贈呈 実施運営委員会 事業費決算報告
平成29年1月12日～13日	作品展（道庁ロビー・道政広報コーナー）

（報告 十河 昌司）

全国会議委員 笹栗 達夫  
委員長 遠藤 謙一良

北海道の「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」の対応と J I A 災害対策委員会の支部窓口の委員会からスタートしました。

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの震災が多くの被害をもたらし、多くの貴重な教訓を残しました、被災建築物による二次的被害を防止・軽減するための「応急危険度判定」が重要とされ、平成7年度以降、震災建築物応急危険度判定士の認定・登録や全国の判定協議会と連携が行われ、北海道でも各支庁の協議会や建築関連団体が協力して相互支援の連絡協議会の早期の設立が求められ「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」は2006年2月より活動をはじめています。

また、2013年12月からは JIA 本部災害対策委員会と連携することとなり北海道支部の災害対策委員として北海道支部も参加しており、JIA 全体としての災害時の支援活動の枠の中に位置づけられるようになり、2014年度から新たな北海道支部の災害対策委員会が立ち上げられました。

災害対策委員会は災害時のネットワークとしてワンストップな機能が求められることから **支部4役**、正副委員長、各地区の代表となっており、総勢34名となっています。

15年度からは組織改編（全国会議化）がなされており、災害対策委員会としては16年度から新たなスタートとなります。

## ■ 16年度活動報告

- 6月29日、3月29日  
災害対策全国会議 WEB 会議参加（笹栗）
- 4月～6月 熊本地震への支援金募集活動  
熊本地震に関する緊急災害対策全国会議 WEB 会議参加
- 6月 函館内浦湾地震の情報収集
- 10月28日 災害対策全国会議（大阪大会）参加（遠藤）

—— 選挙管理委員会 ——

委員長 平尾 稔幸

2016年度支部役員の任期満了に伴う支部幹事及び監査役の改選選挙を実施しました。支部幹事のうち11名、支部監査のうち1名が改選となり、その後の支部総会で選任されることとなります。3月3日に第一回告示を行い3月15日に届出を締切りましたが、期日までに届出があり定員に達しませんでした。3月16日に改めて第二回告示を行い、締切り期日までにそれぞれ定数の立候補届け出があり受理しました。

資格審査の結果、支部選挙規定に全員適合しておりましたので次期幹事及び次期監査として当選人に決定いたしました。

—— 住宅部会 ——

住宅部会代表世話人 大杉 崇  
副代表世話人 五十嵐雄祐  
副代表世話人 弘田 亨一  
会計世話人 小尾 慎  
I T世話人 鷺見 健二  
世話人 石塚 和彦  
監 査 真壁 喜男

2016年5月17日 世話人会  
5月17日 中村好文さんセミナー（TV塔にて）  
2016年6月3日 住宅部会総会・懇親会

※住宅部会から住宅委員会となるため住宅部会の会則は廃止となりました。  
※上記より部会会員で JIA 会員以外の方の JIA 入会の案内を行ったが入会には至らず。  
※上記より今までの部会費残高を用いてノートパソコン、プロジェクターの購入を行いました、残金については支部に返納。

2016年6月26～27日 全国住宅部会にて東北の被災地等の視察



2016年10月19日～23日『スマイノカタチ』-建築家と創る住宅展（チカホにて模型展示）